

(様式2)

2019年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書
(最終報告)

令和2年3月30日

福岡女子大学学長 殿

申請者 所属名 国際教養学科
職名 准教授
氏名 吉田信



| | | | |
|--|--|------------------|-----------------------------------|
| 事業名 (テーマ) | 「グローバル」人材としての教養修得－ホロコーストの歴史を学び、記憶の継承に参画する－ | | |
| 事業実施者及び 事業分担者 | 吉田信 | 大学院生及び 学外協力者等 | Olga BARBASIEWICZ Andreas WeiB |
| 活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること) ※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。 (活動内容) ポーランドのクラクフ、ワルシャワ、ドイツのベルリンを訪問した。期間は、2月20日から3月2日までである。 ポーランド:クラクフでは、旧ユダヤ人街、ゲッソー跡、シンドラー工場跡、アウシュビッツ収容所跡を見学した。ワルシャワでは、ユダヤ人墓地、ワルシャワ蜂起博物館、ポーランド・ユダヤ歴史博物館、ユダヤ歴史博物館、シナゴークを訪ねるとともに、街に残るゲッソーの壁跡、旧市街も見学した。また、ワルシャワ大学移民研究所のスタッフ2名と昼食会を催した他、ヤギエウォ大学のBarbasiewicz教授の特別なご配慮により、SWPS大学を訪ね学生間交流を実施した。 ドイツ:ベルリンでは、ナチス時代に政治犯を収容していたプレッツェンゼー刑務所跡、T4作戦跡地、テロのトポグラフィー博物館、ユダヤ博物館、虐殺されたヨーロッパのユダヤ人を追悼する記念碑、シンティ・ロマ記念碑、新シナゴークなど、ナチス時代の犯罪を追悼する各種施設や記念碑をめぐるとともに、冷戦崩壊、ベルリンの壁崩壊30年を受けて、市中に残る冷戦の遺産(ベルリンの壁跡、チェックポイントチャーリー、旧秘密警察監獄跡等)もたどった。ハンブルク大で教えているアンドレアス・ヴァイス氏に詳細な解説付きでベルリンの案内をしていただいた。 なお、詳しい研修の内容及び成果については、現在報告書を作成中であり、そちらを参照されたい。 (成果) 活動の成果については現在作成中の報告書に詳述する予定である。ここでは、簡単に以下の点を成果としてあげたい。 ・多様な教育活動の実現 既に昨年度の研修に参加した学生からのフィードバックからも確認できたことであるが、1年間ゼミで学んだテーマを実地に学び直し、理解を深めるという教育面での成果が確認できた(添付資料研修に対するフィードバック参照)。昨年度の研修参加者は、研修で得た問題意識を卒業論文に展開させ、執筆したことから、今年度の研修参加者にも同様のサイクル(ゼミでの学習→ホロコースト研修→卒論執筆)を期待するところである。 ・学生間交流の充実 昨年度の研修でもヤギエウォ大学学生との交流の機会を設けたが、クラクフ市内見学の引率と家庭訪問という内容であった。今年度はワルシャワのSWPS大学で日本語を学ぶ学生のクラスに参加、本学学生が福岡市と福岡女子大学を紹介するプレゼンテーションを英語で行い、その後、日本語の実践的な会話を先方の学生と学ぶという内容であり、質の面での向上が見られた。 ちなみに、訪問したSWPS大学、及び仲介の労をとってくださったヤギエウォ大学の先生からは、本学との交流協定締結の可能性も打診されている。 | | | |



事業費の交付決定額(円)

552,000 円

事業費の決算額(円)(領収書を添付すること)

552,000 円

事業費の決算額の内訳(円)

| 費目 | 品名、仕様など | 金額 |
|-------|--|---|
| 消耗品費 | | |
| 印刷製本費 | | |
| 旅費交通費 | 福岡ーワルシャワーベルリン航空運賃代 現地交通費 日本からの研修参加者2名に7万円ずつ充当 引率者1名(徐先生)に15万円 宿泊費(クラクフ, ワルシャワ, ベルリン) | 144,670 30,000 160,000 150,000 65,000 |
| 通信運搬費 | | |
| 備品費 | | |
| その他 | 海外旅行保険 博物館(アウシュビッツ強制収容所, シンドラー工場跡等) | 14,280 8,050 |
| 合 計 | | 552,000 |

※費目等は適宜追加・削除すること

研修に対するフィードバック

<学生A>

良かった点：

「ホロコースト」に徹底した内容で、このようにテーマを決めてじっくり見て回る旅行は初めてで、とても充実していた。

博物館などをいくつも集中して回ることによって、見学の際は内容のみならず、同じ題材でも展示の見せ方が異なっていたり、建築デザインも様々なので見比べるのがおもしろかった。

ワルシャワの日本語を学ぶ学生との交流では予想以上に親睦を深められて嬉しかった。

改善点：

博物館をはじめ、訪問予定の箇所をもう少し予習しておきたかった。地理や基本情報もだが、展示の規模など含めて。見学の際は自由に自分のペースで見て回ることができたのはありがたかったが、予想以上に展示が盛りだくさんで、時間配分に失敗してしまったことが何回もあったから。

学生との交流で少人数グループに分かれてのフリートークの時間が設けられていたが、最初の数分はお互いに何を話題に話していいか少し戸惑っていたので、アイスブレイキングのような活動を用意するか、何か簡単にお題が決められていると更に良かったと思う。

費用・人数など

(私は留学先のフランスから来たこと、友人宅での滞在が多かったので負担した現地での食費や見学費用は大学からの奨励金ですべて賄うことができた。)

人数は学生・教員ともに偶数だったので、交通機関などにもスムーズに乗ることができて都合がよかったと感じた。

<学生B>

良かった点

・ホロコースト、ユダヤ人に関わる博物館や遺跡を訪問できたことは、人生においてもとても重要な機会になった。アウシュビッツ強制収容所はもちろんのこと、ポーランドとユダヤ人の歴史、ワルシャワゲットーのユダヤ人が残した文書は特に印象的だった。帰国後もさらに興味を持って勉強を続けており、とても良い影響を受けた。

・吉田先生が既に一度訪れた場所が多かったおかげ、また現地に留学中の日本人学生が居てくれたおかげか、とてもスムーズに研修が進んだと思う。道に迷うことも少なく、時間を有効に使えた。

・ワルシャワクラクフ間の鉄道移動も快適だった。以前は飛行機を使ったと聞いているが、費用もかかるので個人的には鉄道がよいのではないかと思う。

- ・一日に多くの情報を英語で読んだり聞いたりしたおかげで、英語力の向上につながった。
- ・思いがけずヴィエリチカ岩塩坑を訪れることができてよかった。

費用

- ・適切であると思う。得られる経験を考えたら決して高くは無い。

人数

- ・適切であると思う。これ以上増えると教員の負担が増えるし、博物館等の施設を効率よく訪問するためには今回の人数くらいが適切であるように思う。

期間

- ・適切であると思う。個人的にはもっと伸ばしても問題は無いが、これより短くするのはとてももったいないと感じる。

<学生C>

良かった点

- ・一年間のゼミでホロコーストについて学んだうえでの研修だったため、興味を持っていたテーマについてより深く知ることができたり、フィールドに出たことで新たに関心を抱くテーマを見つけられたりと全体を通して非常に充実していた。充実した研修にするために予備知識は必要だと思う。
- ・ポーランドで訪れた施設はどこも英語に対応していてよかった。
- ・私たちだけで訪問先を見て回るだけでなく、ポーランドの方や学生さんたちと話す機会が持てたことで地元の人々の見解や考えも知ることができてよかった

改善点

- ・一つの場所に費やせる時間がもっとあると良い。研修中時間が足りないと何度か感じた。もう少し長い期間滞在できれば各訪問先に十分な時間をかけることができ、また体力的にも負担なく進められるように思う。
- ・吉田先生の案内にかなり頼ってしまったので、事前に学生で分担して現地の情報収集をしていてもよかったかもしれない。

期間

- ・各施設や展示を見るのに時間が足りないと何度か感じたため予算が許せばもう少し長くても良いと思う。

予算

・私はポーランド内での研修のみ参加したため言及しない。

人数

・今回私が参加した期間は先生方お2人と学生4人での行動だったがちょうどよい人数だったのではないかと感じた。これ以上増えると移動や飲食店での食事の際が大変になると思う。

<学生D>

良かった点

- ・食事がとてもおいしく、体力的にも衰えることなく研修日程をこなせたと思います。
- ・現地学生との交流があり、同年代の子たちと話すのはとても楽しく有意義な時間だったと思います。
- ・今まで学んできたことを、実際に目で見たり現地で学習することで、より一層理解が深まりました。

改善点

・インターネットが繋がるようにSIMを購入しておくべきだったと感じます。交通手段の確認や分からない単語を調べたりできれば、よりスムーズな移動と内容理解に繋がったのではと思います。

費用

- ・航空券やホテル代、食事に関する費用は特に問題なく適当な金額だったと思います。
- ・しかし予定よりも現金を使ったので、ATMで引き出せるように準備しておくことが大切だと思います。

人数

・教員含めて6名だったので、移動もしやすく、食事もテーブルを囲んで楽しめたので良かったと思います。

期間

・クラクフは三泊でしたが、初日と最終日はほとんどが移動だったので、物足りない感じがしました。